

◆ 江北図書館のあゆみ ◆

明治三五年（一九〇二）

杉野文彌、郷里伊香郡余呉町大字中之郷に私蔵書三〇〇冊にて「杉野文庫」を開設。

明治三六年（一九〇三）

伊藤博文・新渡戸稲造・徳富蘆花など当時の政治家・文化人が競って買い求めたというエンサイクロペディア・ブリタニカ第九版（大英百科事典）を購入。

明治三七年（一九〇四）

杉野文庫、木之本へ移転（大字木之本九八二番地）木之本村大字木之本の伊香郡議事堂の一部（二七坪半）を無償で借用。杉野文庫図書縦覧所と改称（江北図書館設立事務所を併設）、同時に伊香郡長林田民次郎が管理者となる。東京には江北図書館東京事務所を置く。蔵書数六九二二冊。

明治三九年（一九〇六）

第一回評議員会を開催。牧野伸顕文部大臣に「財団法人江北図書館」の設立を願い出る。

一二月

文部大臣より設立を許可され、長浜区裁判所木之本出張所に法人登録する。理事に林田民次郎（伊香郡長）、富田八郎（伊香郡会議長）、松井常太郎（北富永村村長）が就任。林田が理事長兼館長となる。

明治四〇年（一九〇七）

財団法人江北図書館開館。運営費は杉野文彌の私財と伊香郡役所からの補助金。

四月

伊香郡議事堂において開館祝賀式および講演会を挙行する。閲覧図書冊数二〇八八一冊。

明治四二年（一九〇九）

一二月

議事堂と同じ敷地に立地する旧木之本本税務署の庁舎全部を借受け移転（木之本本税務署は前月に廃止）

大正一二年（一九二二）

八月

伊香郡長松原五百蔵、歴史ある伊香郡に紐解く郷土史が無いことを憂い、伊香郡誌の編纂を提唱する。

九月

伊香郡誌の編纂を目的とした郷土史編纂会（総裁・松原五百蔵、会長・富田八郎）が設立される。その後、松伊香郡誌は三〇年後の昭和二七年（一九五二）、「伊香郡志」上中下三巻として江北図書館から発行されることになる。

昭和七年（一九三二）

六月

江北図書館の創始者杉野文彌没する。

昭和一二年（一九三七）

八月

借用していた旧木之本本税務署の建物が売却処分となるため、近隣の江北銀行の建物を借用し移転する。（大字木之本九八七番地）

昭和二〇年（一九四五）

七月

借用していた旧江北銀行を買い取る。（建物九八〇〇円、土地一六〇〇〇円）

昭和五〇年（一九七五）

七月

現有建物（旧江北銀行）を四六〇〇万円余りで売却し、旧伊香農業協同組合の建物を七〇万円で購入し、移転する。これが現在の江北図書館である。（木之本一三六二番地）

平成一九年（二〇〇七）

財団法人江北図書館、開館一〇〇周年を迎える。

平成二三年（二〇一一）

六月

公益財団法人の認定を得る。